

世田谷・九条の会

世田谷・九条の会
ニュース No.68
2023年3月2日発行
(題字 西山簡石)

●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付
Tel:03-6413-9547 Fax:03-6413-9548 Mail:setagaya-9jou@kzh.biglobe.ne.jp
●ホームページ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~setagaya-9jou/>
●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会

『2022年2月24日の朝』

宮本 友介

およそ1年前のことだ。2022年2月24日の朝、ベッドから出ると戦争が始まっていた。湾岸戦争以来、国家間での侵略戦争が起こるなんて想像しづらかった。桜丘・経堂9条の会で催した勉強会でも、僕はこう言った。

「戦争が起こるかもしれないと、だから仮想敵国に対しての敵基地攻撃能力を保持して強化するという言質がある。でも、この国際社会のどこに、他国に対して武力でもって侵攻する国があるというのですか」と。

これを平和ボケだというのなら、僕は平和ボケのまま戦争をテーマにした番組を作り続けたかったけれども、SNSではウクライナのユーザーがリアルタイムで動画や写真を配信し続けたし、ウクライナ政府とロシア大統領府は宣戦布告を受けた、発したと投稿していた。1年経った今、SNS上での戦場の映像や写真は、まるでかつての西部戦線の様相を呈している。

2022年のあの朝、ウクライナの首都、キーウの街を映すライブカメラで、どこかの犬が遠吠えしていた。鳥もカメラを横切った。遠くでジェットエンジンの音がした。

1939年9月1日、当時のドイツとスロバキアがポーランドに侵攻した、その日のことを手記に遺していた女性の言葉を思い出す。

「戦争が起こるなんてあの朝まで信じていなかった。だって私は16歳で、再来週には定期試験があるのに」

奇しくも2月24日は90年前、日本が当時の国際連盟を脱退した日。そして日中戦争が5年後に始まる。

僕は近現代史家ではない。太平洋戦争をテーマにした仕事をする上で不可欠だから、戦争について思いを巡らせる時間が多いだけだ。だからこそ、戦争に合理的な意味を僕は見出せないし、戦争に合理的な意味を語る人間や、あるいは教訓めいたことを語ろうとする人間がいたら、間違いなく想像力の欠けた人間だとしか思えない。戦争の只中にいる遍く誰をも穢す人間たちだ。

1年経った。僕らは戦争から目を背けず、毅然と唾することができているだろうか。

2022年2月24日の朝、キーウの街では鳥が囀っていた。

犬の遠吠え、首都を流れる車列、ジェット機のエンジン音も。（桜丘・経堂九条の会）

沖縄をめぐる、二つの祈り

日高 香代

2022年2月28日、国連総会緊急特別会合において、ウクライナのキスリツァ国連大使が演説をした。その演説最後の言葉を聞いて、私は心底ぞっとした。それはこういう風な内容だった。

「ロシアの侵攻により亡くなったウクライナ人のために祈ってください。そして、これから亡くなるウクライナ人のために祈ってください。」

そして間もなく世界中でウクライナの青と黄の国旗が打ち振られ、ウクライナの人々の勇敢さ、辛抱強さが誉めたたえられた。

翻って、南西諸島（琉球弧）では今、「日米離島奪還訓練（傍点著者）」という名の、自衛隊と米軍海兵隊による合同訓練が行われている。鹿児島県や沖縄県に属する島々がミサイル攻撃を受け侵攻されたその後に、その土地を取り返すのだという。人が生活している土地である。そこの人々はその時どうなっているというのか？

島々が攻撃されるのは想定済み、これらの県民に犠牲者がでるのはもう織り込み済みである。

「オキナワ」の人々は、日本政府や本土の一部の人から、“すでに祈られている”。そして間もなく世界中の人が日の丸を振って、「オキナワ」の寛容な人々の忍耐強さを称えてくれるのだろう。

昨今は、そんな近未来を思い描かざるを得無いほどの切迫感を感じている。なぜ「憲法九条」はこの事態を許しているのだろうか？

*

世田谷区から沖縄県北部に移住して4年目に入った。驚いたことの一つは、高速道路のカーナビである。地図画面に市街地が表示されていない地域があるのだ、しかもかなりの広範囲である。グレーの“ベタ”の中を一本の道が延々と続く。グレーのベタが米軍基地を表していることに気づくのに時間がかかった。

「沖縄県は、国土の約0.6%の面積に、日本全国の米軍専用施設の70.4%が集中」といわれるが、むしろ「米軍基地の中に沖縄県民が住んでいる」という感覚である。

碧い海、青い空、安全な食材、そして温和な人々を沖縄に求めるのはもうやめた方が良い。それらは基地のせいですでに失われつつある。



*

政府の常套句。

「世界で一番危険な普天間基地除去のため、辺野古に基地を移設する」。あくまで「基地移設」と言い張り、決して「新基地建設」とは言わない。格段に豪華な新基地を国民の眼から隠すために。

「一日も早い普天間基地返還のため」。辺野古新基地建設工事の工期が、軟弱地盤発見などによって当初の予定より大幅に延長されることが明白になり、「基地移設」ならば、普天間の住民は少なくともあと10年は待たされることとなった。「一日も早い」にどんな意味があるというのか。こんなレトリックも、言い続ければ真実になると思うのか。

*

このところは全国で「国民保護法に基づいた避難訓練」が行われている。沖縄では、与那国町と那覇市でミサイル攻撃を想定した避難訓練がすでに行われた。「国が守ってくれるから」「訓練はやらないよりやる方がいいから」と、参加した人もいただろう。

しかし、戦争を前提条件にした未来を受け入れる必要がどこにあるのか？ 「ミサイルから身

を守るための避難訓練」という政府の計略に乗ること、まさにそれが戦争の気運を高める。日本政府は自らが招き入れようとしている戦争を遂行するために、国民の分断も図っているのだろう。

これから「ミサイルから身を守るための避難訓練」が各地で始まると聞く。国民の同調圧力の強まりによって、戦争を押しとどめることがより一層難しくなるだろう。その日が、すぐそこまでやって来ている。

*

2018年12月14日、初めて辺野古の海に土砂が投入された。

土砂は現在、沖縄北部の港、名護市安和と本部町塩川、この2箇所からのみ搬出されている。ここ北部の山は、途方もない量の土砂採掘によってみるみる形が変わってしまった。それは山がまるごと辺野古の海に沈められるに等しい。

土砂搬出が始まって以来、私たちは船に土砂を下ろそうとするダンプトラック一台一台の前をゆっくり歩行する運動によって埋め立てを遅らせ続けている。2箇所合計で22時間の作業時間を歩き続けて、毎日400台分ほどの土砂投入を阻止している（これはほぼ運搬船1隻分に相当する）。

しかし“官邸案件”の辺野古埋め立ては、県民の抵抗を無視して今日も粛々と進められている。

私たちは毎日負け続けている。でもその“負け”を少しでも減らすために、一日も休むことなく、少人数で抵抗運動を続けている。

毎日常に、ここに100人いれば――。

埋め立てる土砂を調達できなければ、辺野古埋め立ては止まる！

ある日、機動隊が排除しきれない程の人数が大挙してやって来て、ダンプのタイヤが動きを止める……私たちはその日を待ちわびている。 (沖縄在住)



【コラム】

ウクライナ戦争とドイツ

ロシア軍がウクライナに攻め込んでやがて1年が経とうとするこの頃、戦火は鎮まるどころかロシア軍による春季攻勢がいまにも始まるのではないかと伝えられています。ウクライナ大統領は西側とくにドイツに主力戦車レオパルト2の供与を要請していました。ドイツ首相ショルツは1月末になってようやくアメリカと歩調を合わせてこの要請にこたえる決断をくだしました。これでウクライナ軍はすでに約束済みの歩兵戦闘車マーダー40両、自走榴弾砲などあわせて相当に強力な機動部隊を整える目処がつかしました。だが彼はまだ満足せず今度はジェット戦闘機が欲しいと言い出しています。

ドイツ市民のあいだでは、戦車の供与をめぐる世論が分かれています。テレビ局ARDが1月24日に行った世論調査では供与に賛成46%、反対43%とほぼ拮抗しています。テレビでは連夜政治家、評論家が討論を重ねています。ドイツ首相の決断は遅すぎた、春季攻勢に間に合わなくなったのではないかと強硬論が声高に唱えられる一方、ドイツはじめ西側諸国はウクライナの要請にどこまで続けるつもりなのか、最後の一线はどこなのか、ドイツが戦争当事国とみなされロシアの攻撃を受ける羽目にならないかとの不安の声もあがっています。最近の世論調査ではドイツが武力攻撃を受けたらこれに対し武器をとって戦うと答えた市民は10%にとどまると言います。

戦争を恐れる市民の声を代表して、2月10日フェミニストとして知られているA. シュヴァルツァーと左翼党連邦議会議員S. ヴァーゲンクネヒトがネット上で、ウクライナへの武器援助は停止せよ！ただちに和平交渉を始めよ！という「平和の宣言」を発表しました。世界はいまや核戦争への「滑り台」を滑りはじめていると訴えるこの宣言には3日間で40万人近くが賛同の署名を寄せました。これに対し、この宣言はロシアの帝国主義的野心に対する許し難い無知の現れであり、ウクライナを見捨てロシアに屈服する和平はありえないとの厳しい批判が加えられています。ふたりが呼びかけた2月25日ベルリン、ブランデンブルク門での平和を求める集会にどれほどの市民が集まるか、またそれへの反響はどうか、見守りたいと思います。

(下村由一)

天国の母の嘆き

清水 健

私が物心ついた時の家族は、母と小学生の姉の3人でした。大工をしていた父の仕事の関係で姉が小学校に入る前に満州に渡ったのだそうです。母は、私を出産するために、実家である新潟県の六日町（現・南魚沼市）に姉を連れて里帰りをしたのですが、戦局の悪化で満州に帰ることができなくなり、私たちはそのまま六日町で生活することになりました。

終戦後の生活は悲惨でした。住まいは知り合いの農家が使わなくなった茅葺屋根の小屋を借りました。母の弟は農家だったのですが、当時の農家には米の「供出」という義務が課せられ、私たちに分けてくれる余裕はありませんでした。そのため食料の確保も大変で山菜や野草まで食べる生活でした。その上父がソ連に抑留され、音沙汰がない状態が長く続き、母は私たちを育てるのに必死でした。六日町周辺の農家から米を多少安く分けてもらい、焼け野原になっていた東京の食堂などに買ってもらいその利ぎやで生活する「闇米屋」をして私たちを養っていました。私は普段は叔父に預けられ、姉が学校から帰ると二人で母の帰りを待つ毎日でしたが、そのような生活は私が5歳の時に父が復員するまで続きました。母は当時の体験がよほど辛かったのか「今度戦争になったら子どもを殺して自分も死ぬ」と口癖のように言っていました。

両親とも30年前に他界しましたが、日本が戦後僅か70年余りで再び戦争の危険な道を急進していることを知ったら、天国の母はどんなに嘆き悲しむことだろう。（世田谷区労連）

軍事力増強で国民のいのちは守れるか — 「抑止力」という幻想 —

福島 和夫

国会で総理や閣僚の答弁、また政府が出す文書を見ていると、決まり文句が頻繁に出て来て気になる。これは安倍政権の時からもそうだった。いわく、「わが国を取り巻く安全保障環境はかつてなく厳しさを増している」。今にも他国から攻められ、ミサイルが飛んで来て家や街が破壊尽くされる、ちょうど今のロシアの侵攻で苦しめられている、ウクライナの状況と同じようなことが迫っているのではないかと錯覚させられる。昨年11月に出された「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」の提言、そして12月に臨時国会閉幕を待って閣議決定された安全保障三文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略と防衛力整備計画）の改訂、すなわち「国家安全保障戦略について」の、いずれもがこの「厳しい安全保障環境」から始まり、「いつ他国（中

国、ロシア、北朝鮮) が日本にミサイルを発射したり、武装艦船を差し向けたり、また兵員を上陸させて来るかわからない、それで「国民の生命と生活を守るために、その脅威に対抗し「抑止」するための防衛力を持たなければならない」として、これを賄う予算は、「国民みんなのためだから広く公平に負担するのがあたりまえ」と言い、結局は増税か赤字国債が当然とする。

「日本は憲法で戦争をしないと誓っているではないか」と声を上げると、政権に近い考えの人は、「憲法で国が守れるか！お花畑で夢を見ていて情勢の厳しさを自覚しないノー天気な連中」と激昂する。政府は、防衛施設の地下化を進めたり、この1月には、南西諸島で(中国からの)ミサイル飛来警報を出しての市民を巻き込んだ避難訓練をさせる等々、なんとかして国民に「攻められる恐怖」を実感させようとしている。「お花畑で夢を求め」て何が悪い、平和の尊さを冷静に考えるべき時ではあるまいか。

「国家安全保障戦略について」では、わが国の憲法すなわち「国是」にはまったくふれていない。改憲して自衛隊を軍として認め、強化することが「党是」の自民党政権だから何の不思議もない、と半ばあきらめの感覚でやり過ごしては、70~80年前の戦争の苦しみを実体験した祖父母や両親、そして私たちの子や孫に申し訳が立たない。

先日、新外交イニシアティブ代表の猿田佐世弁護士の話聞く機会があった。氏は日本政府が防衛力(敵基地攻撃能力=反撃能力)を強化して「抑止」を図る愚かさを指摘した。軍備強化での「抑止」は幻想に過ぎない。中国の経済力・軍事力は今や日本の比ではなく、軍拡競争の果てに日中貿易が止まればその経済的影響は計り知れないし、いったん抑止が破綻し「有事」となれば、日本は破滅的な結果を招く。「台湾有事」は何としても起こさせてはならない。米国の「統合抑止」とは、米国が対中全面戦争を避けるために、最前線の日本などの軍備を増強し、人(兵)と軍備(財・基地使用)を米国の対中戦略に引き込もうとするものだ。逆に言えば、日本が「台湾有事」に関与しないと宣言しさえすれば、「有事」は回避される。日本は武力攻撃しないという「安心供与」でこそ安全を守るべきだという論にうなずかされた。



折しも、トルコ南東部で立て続けに大地震が起こり、トルコとシリアで合わせて4万5千人を超える犠牲者が出た。世界から救助の手がさしのべられていることに人々の良心を強く感じる。自然災害による危機に際してはこれほど一致協力できるのに、人為災害である戦争の脅威に対しては、互いに銃を向け合うことを第一に考える愚かさ。とくに、地球環境危機が度重なる異常気象として現れ始め、飢餓や貧困で苦しむ多くの人々が生まれている今、軍備に資源を

割く余裕はない。核はもちろん、戦車やミサイルで災害防止や復旧を図ることは全くできないのだから。

ただ、問題は残されている。軍を背景に、自国民また他国民を屈服させようとする指導者、国連憲章を無視して他国を侵略し、国際法に反して人々を殺傷し、国土を蹂躪しても、ひとつも反省せず、また戦争犯罪にも問われない大国の指導者がいる現状がある。それは今のロシアだけではない、ベトナムやイラクなどに軍を送り込んだ米国もそうだった。国連の場では、総



会と国際司法裁判所などの権限の大幅な見直しを期待しつつ、わが国の政府には、軍事力でなく、相互信頼に依存した諸国間の連繫強化にこそ、尽力すべきだと訴えたい。

(世田谷・九条の会事務局)

【交流会】

2月の交流会は、はじめての試みとして Zoom でのオンライン会議で実施されました。予定がうまく合わない、天候が良くない日にわざわざ事務局までお出でいただくということが、とくにこのコロナ禍の中で難しくなりました。すでに区内の九条の会の中には、Zoom を駆使して定例の会議を持っている代沢などの例があります。お仕事を持っていて、日中は時間が取れないという現役の方々、また学生の皆さんのお力を借りながら、これからも九条の会を続けて行くことができると願っています。事務局が不慣れなために、ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、皆さんのお知恵を拝借しながら研鑽して参りたいと考えています。

今回は最初ということもあって、通常開催と同じ時間設定で2月18日(土)の午後2時から開始しました。参加されたのは、代沢、まつざわ、烏山、成城・祖師谷、桜丘・経堂と世田谷の6つの九条の会からの8人でした。直前に都合で欠席されましたが、代田からは資料をお送りいただきました。資料は事前にお送りいただき、参加予定者にメール配布しました。最初に世田谷・九条の会事務局から、前回(昨年5月)以降の事務局の運営についてレジュメに基づく報告を行ったあと、各九条の会から、参加者の自己紹介と活動報告をいただきました。

冒頭で、九条の会も加わっている「戦争させない!九条こわすな!世田谷連絡会」と車の両輪のように、労働組合ほか市民団体が加わって活動している「生かそう憲法!今こそ九条を!世田谷の会」から、事務局長の工藤さんにご挨拶いただく予定でしたが、Zoom のリンクの不具合で途切れてしまいましたので、話される予定だった内容を原稿にさせていただきました。

【生かそう憲法！今こそ九条を！世田谷の会】

「生かそう憲法！今こそ9条を！世田谷の会」は世田谷区内の労働組合でつくる地区労や区労連、市民団体、法律団体などが力をあわせて憲法9条などの改憲を許さず、憲法が生きる社会をめざして運動を進めています。

会は、毎月、駅頭宣伝と署名行動を粘り強く続けてきましたが、最近では、1月16日に上町でボロ市宣伝を19名の参加で行い、2月11日には羽根木公園入口で梅まつり宣伝を22人の参加で行いました。

今、平和の問題は、戦争か平和かの分岐点に立っていると強く思っています。

岸田内閣は、昨年12月の安保3文書の閣議決定、敵基地攻撃能力の保有、そして、他国の基地や政府の主要省庁を攻撃することも「専守防衛の範囲」とまで言い、5年で43兆円もの大軍拡をすすめるようとしています。

ひとたび、戦争が始まれば終わらせることは極めて困難です。国連憲章違反のウクライナ軍事侵攻を見ても、戦前の日本を見ても明らかです。その結果、多くの国民が犠牲になります。

この危険な動きを今、止めることが必要です。黙ってでは止められません。一人ひとりが「戦争だけはしてはいけない」「こんな危険なことは許せない」と声をあげようではありませんか。

私たちの会や世田谷・九条の会が参加する『戦争させない！9条壊すな！世田谷連絡会』の呼びかけで『3.12（日）区民集会&パレード』が10時30分から若林公園で行われます。多くの皆さんの参加を呼びかけます。

また、私たちの会の主催で5月26日（金）6時30分から梅丘パークホールで望月衣塑子さんの講演会を予定しています。こちらにもお越しいただきたいと思います。

『戦争はさせない』『9条改憲は許さない』『大軍拡・増税ストップ』に向けて、引き続き力を合わせていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

【桜丘・経堂】

Yahoo Japanの方を招いて、2回学習会を行った。フェイクニュースやSNSを介して流される情報の受取る側と発信する側の問題、またメディアそのものの在り方など、多面的な角度から多くの人に働きかけるつもりで開いている。参加者はそれぞれ15名ほど。行動としては、毎月第三土曜日に千歳船橋駅前で、有志の方々とともに、ちとふなスタンディングを続けている。



【まつざわ】

コロナ禍で駅頭などでの宣伝ができなくなり、学習会が中心の活動が続いている。この1月末に金子勝さんの学習会を開き、13名が参加した。そのとき金子先生が作られた資料を『ホットニュース』として会員に配布した。3月24日(金)10:00~12:00に、桜上水南地区会館で、東京総合教育センター所長の児玉洋介さんをお招きして「どうする？日本の未来を担う子どもたちのために！」と題する講演会を世田谷区講師派遣事業として開催する予定。今後駅頭宣伝など区民への訴えを復活させていくことを検討している。また5/20(土)には、代沢、代田と共催で弁護士の四谷姉妹を招いた講演会を予定している(@下北沢 都民教会)。

【成城・祖師谷】

成城・祖師谷では、この間2回学習会を開いた。ひとつは、世田谷の空の騒音問題。毎日新聞の大場記者を招いて、世田谷から日米地位協定の問題を考えた。沖縄や横田、日本各地の米軍基地周辺で大きな問題が起こっているが、私たちの住んでいる世田谷でも米軍ヘリの低空飛行の問題を告発していきたい。もう一つは清水雅彦先生をお招きして安保三文書の勉強会。清水先生からは、「仲間うちだけ集まって話しているだけではだめ、学習会をするときは少なくとも1人若い人を連れてくるようにすべき。年寄りはいしゃべりすぎないように」と檄を飛ばされたとか。今月は、2/25に、ちらし「トピック」(平和を望むなら平和のための準備をなさい)を配布して署名活動に取り組むことを予定している。



【代沢】

毎月、例会をオンラインで開いている。20名ほどに呼びかけているが、参加者は5,6人から10人程度。ひとつは、辺野古基地建設反対運動支援の活動。現地に何人かが行き、その経験を持ち帰って東京でも広めようと取り組んでいる。もうひとつは「区政を学ぶ会」で4年前から活動している。最近は、めぐせたの区政ウォッチと一緒にシール投票(例えば1/9の成人の日には新成人に)。また、昨年実施した各区議の「憲法観」アンケートやこのシール投票の結果を題材に、各区議と面談し、意見交換している。シール投票の設問の一例は、「防衛費を増やせば戦争は避けられますか？」国から戦争に行けと言われたら行きますか」など。一人会派の区議を含め、2時間程度話し込めている。

【烏山】

連絡のとれている人が 300 人ほどいて、昨年は対面での総会を開いた。9 月には国葬に反対する集会を開いた。毎月、ちらしを配布して千歳烏山駅近くでのピースパレードを実施している。ピースパレードには、多いときは 5、60 人の参加があったが、最近では 20 人前後。次回は明日（2/19）午後 2 時から。多聞に漏れず高齢化が進み、新しい会員を募ろうと、今募集をかけているところ。学習会（日本の近現代史）にも力を入れていて、最近新しく話題に取り上げているのは農業問題で、「戦争と農業」（藤原辰史著）を題材にして、こちらも月 1 回のペースで開催している。

【代田】

都合がつかず、資料『代田・九条の会ニュース』171 号提供だけの参加となった。ニュース発行は従前通り毎月続けている。3 月 1 日（金）午後 2 時から 1 時間、久しぶりに梅ヶ丘駅前での宣伝と署名活動を実施する予定。

Zoom の不手際で中断時間が長く、討論に集中できなかったところがありましたが、代沢の報告にあった世田谷区議との懇談に関して、内容の詳細は知らされないかとの質問、区民への問いかけは意味があるが、区議との話し合いではそれへのリアクションを示すのが良いのではという意見がありました。最後の事務局からの提起事項については編集後記を参照して下さい。

九条の会は、通常国会の開会に際して以下のような声明を発表しました。

九条の会事務局声明

アジアと日本を戦争に巻き込む大軍拡と改憲に反対しましょう

—通常国会の開会にあたって—

2023 年 1 月 23 日 九条の会事務局

1 月 23 日、第 211 回国会が召集されました。本国会において、岸田文雄政権は、自民党政権のもとでも続けてきた「専守防衛」の路線をすら真っ向から蹂躪する 2 つの企てを強行しようとしています。今国会は、今後の日本の進路を左右する重大な対決の場となりました。

一つは、23 年度予算において防衛費の大幅増額を図ろうとしていることです。昨年末の 12 月 16 日、政府は、自ら「戦後安全保障政策の大転換」と明言する「国家安全保障戦略」ほか安保 3 文書を閣議決定しました。その中心は、歴代政権が憲法の趣旨に反するとして認めなかった

「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」と言い換えて保有することであり、それを柱とする 5 年で 43 兆円にのぼる大軍拡方針でした。これを実行するため、政府は、12 月 24 日には、トマホークの大量購入はじめ防衛費に 6 兆 8219 億円を計上する大軍拡予算案を閣議決定したのです。

さらに重大なことは、1 月 11 日の日米安全保障協議委員会（日米 2+2）、続く 13 日の日米首脳会談において、日本政府が、国会にも諮らないまま「防衛力の抜本的強化」と「そのための予算拡充」をアメリカ側に約束したことです。その上で、日米 2+2 の「共同発表」と首脳会談を受けた「日米共同声明」において日米両国は、「日米同盟の現代化」という名のもと、日米同盟を対中国等を念頭に置いた文字通りの軍事同盟に強化することに合意し、その具体策を列記したのです。

安保 3 文書の閣議決定以降の、こうした政府の一連の行動は、憲法 9 条の理念を真っ向から踏み躪る暴挙であると同時に、それを国会での審議もせずに行った、立憲主義の重大な侵犯に他なりません。しかも岸田首相は、防衛費の増額を「増税」によって実現すると明言しています。増税はもちろんです、たとえ増税が回避されても巨額の防衛費増を賄うため社会保障費等の削減や負担増など、それが暮らしをさらに悪化・破壊することは明らかです。今度の国会では、こうした政府の行為が果たしてアジアと日本の平和を促進するものか、それとも憲法が掲げる平和の路線のあからさまな蹂躪なのかを徹底的に議論し、軍拡予算にストップをかけなければなりません。

第 2 の企ては、こうした大軍拡、日米軍事同盟の侵略的強化の企図に立ち塞がる憲法 9 条自体を改変する明文改憲の策動です。任期中の改憲を宣言した岸田首相は、憲法審査会で緊急事態条項の論議が進んだことを踏まえて、今国会では審査会において緊急事態条項改憲での合意づくりを先行し、9 条への自衛隊明記も併せて、改憲の発議に向けて「前進」しようとしています。大軍拡予算の審議と並行して、維新の会などの協力を得つつこちらも進めようという思惑です。

今こそ、市民が立ち上がる時です。大軍拡と改憲は、アジアと日本を戦争に巻き込む道、絶対に許さないという声で、国会を取り囲みましょう。

振り返ってみれば、市民は、戦後いく度かの改憲の策動に立ち向かい、76 年間にわたり改憲を阻んできました。2016 年以降の、衆参両院で改憲勢力が 3 分の 2 を上回っていた状況の下でも、市民と立憲野党の共闘の頑張りによって安倍改憲を阻んできました。この力に確信を持ち、地域、草の根から、戦争への道 NO! の声を上げましょう。

【俳句教室（5）】

山形 三郎

訂正：前回の「俳句教室4」で「百円ですくった金魚みな元気」は、17音が正しい答。
（誤植しました。お詫びします。）

句帳の使い方：今までもメモ・ノートの重要性を強調して来たが、まとめてみた。
見た景色から歌にしたい季語を見つける。②景色の中の動き、匂い、色彩、音などを特記する。③その時の気持ちを表現してみる。その気持ちは、必ずしも言葉にするわけではない。
うれしい、寂しい、悲しい、など感情を表す別の表現を考えること。④五音・七音でまとめる。⑤使った言葉と同じ意味・内容を持つ言葉を辞書で探す。そうして多くの言葉や漢字を覚えると表現が広がる。

旧かなづかい：俳句の歴史的な流れから、柔らかい独特の雰囲気が出る。

「あらたふと青葉若葉の日の光」芭蕉

「あらたふ」：あらとうと（ああ尊い）新緑の日光東照宮の作

例 蝶々：てふてふ 声：こゑ 哀れ：あはれ 香り：かをり 居り：をり

但し、1句の中では、「旧かなづかい」で統一する必要がある。無論、現代かなづかいを使う事を選ぶことも良い。

俳句の基本

見る：自然の中の題材を見て、触れてこそ句が生まれる。散歩などが良い機会。

日常の驚き（観察と発見）で、自分の心が揺れる。それを俳句に詠みこむ。読み人の心も揺れる。

「是がまあつひの栖（すみか）か雪五尺」一茶

やっとな故郷に帰って来た一茶が、死ぬまで過ごす土地の雪を見て、ため息をついた景。

今月の投句：

「梅林の匂ひ溢るる日和かな」Aさん

「柴犬の大あくびしてひなたぼこ」Fさん



【当面の行動予定】

3月12日（日） 10:30～ 世田谷区民集会&パレード（同封別紙参照）

場所：若林公園 集会后 三軒茶屋までパレード

【おたより】

- *少額の募金ですが、よろしくお願ひします。いつもありがとうございます。Oさん（宮坂）
- *大軍拡絶対反対 Nさん（等々力）
- *憲法9条はなんとしても、守っていかねばなりません。少しでも役立て戴ければと思ひ振り込みます。よろしくおねがひします。Tさん（奥沢）

【編集後記】

- ☆ ロシアのウクライナ侵攻から1年が経過しました。廃墟となるまで徹底的に破壊し尽くされた集合住宅。必死で消火や救助活動をする人々の姿。家族を失い、防空壕で悲しみにくれ、おびえる母親と子どもたち。ここに来て、最新の戦車や榴弾砲、ミサイルの発射映像などが目立ちます。あたかも戦争映画のように。その弾頭の行き着く先でどんな悲劇が起きているのか、本当に胸が締め付けられる思ひです。
- ☆ 交流会で桜丘・経堂の若手の宮本さん（世田谷・九条の会事務局兼任）から、世田谷での先の大戦の戦災記録（記憶）を区として残していくよう働きかけて行ってはという提案がありました。終戦後すでに77年、確実に伝承していく時間は限られています。世田谷平和資料館の活用と合わせ、九条の会として、積極的に受け止めて行きたいと思ひます。
- ☆ 1月23日に憲法共同センターなどが提起した、新しい署名「平和、いのち、くらしを壊す大軍拡、大増税に反対する請願署名」を総がかり行動実行委員会も取り組むことを決めました。世田谷の九条の会としてもこれを交流会で提起し承認いただきました。用紙と封筒を同封しますので、改憲反対の署名と一緒にご活用下さい。恐れ入りますが、返信用の切手はカンパ下さい。
- ☆ ネット回線に不都合が生じ、通信会社とネットのプロバイダーを変更せざるを得なくなりました。3月末には完全に切り替わる予定です。確定次第お知らせします。ご迷惑をおかけしますが、ご容赦下さい。
- ☆ 67号で呼びかけた寄金要請に47名の方から417,000円が寄せられました。本当にありがとうございました。